

そよかぜ診療所/はるかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学附属病院 初期研修医二年目 岩橋真子

残暑が残る9月に、そよかぜ診療所で研修させていただきました。訪問診療時に真夏並みの暑さで汗だくになったり、雨に土砂降りに降られてずぶ濡れになったり、天候に惑わされながらの1ヶ月間でしたが、私にとって思い出深い研修となりました。

研修で一番よかったことは、さまざまな手技を習得できたことです。初めのうちは採血で失敗してしまったり、エコーをうまく描出できなかったり、思い通りにいかないこともありましたが、コツを先生方や看護師さんにアドバイスしていただいたおかげで、手技は上達し、自信を持つことができました。正直一年目の時は、エコーに対して苦手意識がありましたが、何回も指導していただいたおかげで、だんだん出したい像が描出できるようになり、次第に苦手意識もなくなりました。

訪問診療では、患者さんの訴えに声を傾け治療を行うだけでなく、話し相手になり、先生の顔を見て話を聞いて安心する患者さんの様子を見ると、そよかぜの先生方のことを信頼していることが伝わり、地域と診療所の繋がりを感じ

ました。

先生方が、歓迎会と送別会で焼肉に連れて行ってくださった際には、将来の医療についてや今後の働き方についての話などもしてくださいました。開業し、診療所で働くことは、大学病院や市中病院で働くこととはまた違った楽しさや難しさがありますが、将来の働き方の一つとして開業という道を考えるきっかけになりました。

岡本家の皆さんに栄養満点の昼ごはんを振る舞っていただき、地域の患者さんにも優しく受け入れていただいたおかげで、精神的にも身体的にも健康的に過ごすことができました。先生方に手厚く指導していただき、自分の中でやる気が芽生え、実りのある有意義な研修となりました。成長と同時に自分自身の課題や勉強すべきことなども見えてきたので、今後も勉学に励み精進していきたいと思います。1ヶ月間ありがとうございました。